

友人のみなさま

2011/07/31

ご無沙汰しておりますが、暑い中お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、「あみあみぬいぬい手しごとひろば」は、被災者受け入れ施設が7月26日の宿泊までの受け入れ、となりましたので、まだ続けていた火曜日のひろばも19日でおしまいとなりました。

四月の末から、水曜日のひろば（一回の参加人数10~16名）を5回、月曜日のひろば（一回の参加人数5~8名）を6回、そして、火曜日のひろば（一回の参加人数6~10名）を11回行うことが出来ました。

火曜日のひろばは、比較的年齢の高い方が多く、ズボンの裾上げからのスタートでした。何を作ったらわからないという方には、まずは針刺しを作って頂いて針を刺して持ち帰って頂きました。最初の日は、見に来ただけと言う方もいましたが、次第に火曜日を心待ちにして下さるようになり、材料が少なくなっても「あるものでやりましょう」、いよいよなくなったら「支援物資をリフォームしましょう」と言われ、ぎりぎりの週まで続いたのはそういう雰囲気だったからでした。

イサさんは、初めての日にすぐに毛糸と棒針を手にして編み始めました。何も話さない方なのだと思っていましたが、ベストが出来あがったら満足した感じでおしゃべりになりました。「たくさん作ってあったの、全部流された。毛糸を見た時には嬉しかった。又作り出す」と言って、それから、ベストをもう一つとカーディガンを編みあげました。

サトさんは81歳で、針刺しの中身に羊毛を入れていたら、小さい頃羊がいて、角があつて怖かった、お姉さんたちは紡いで編んでいたという話をされました。後で、私のうちに羊がいることを知ったら、ハンドカードや紡毛機の話まで懐かしそうに話してくれました。

トミ子さんは、針友という言葉を作り出した方。「メル友って言うでしょ、私たちは針友」と。(77歳のセンス!) 裾上げをしたり、袖を直したりサイズの直しを沢山やり、またボタンをかえて服を変身させました。帽子はここで編みましたが、「ベスト用の毛糸は、仮設住宅に入ってから不安だから、そこでやれるように取っておく」と言っていました。

フジさんは最高! 初めてひろばに来た日、布を手に取り突然立ち上がり、「部屋に戻って製図します」と言って帰っていきました。「あの時は凄かったわよね」と、あと後まで皆に言われましたが、翌週には出来たところまで見せないと悪いからと持ってきて、その次の

週には手縫いのブラウスが出来ていました。それからも布を見てピンとくると本当に嬉しそうでした。元洋裁師さんなそうですが、背中が曲がり手は震えているのです。お身体大丈夫かしらと心配にもなりましたが、楽しそうな顔を見るとまあいいかという気持ちになりました。ご自分では手を動かすのはリハビリになるからと言っていました。

ミキさんは、途中からの参加。「初めて来たのに布もらっていいかしら、モンペが作りたい」と持ち帰りました。「裁断を間違ったので出来なかった。うそつきになったら困るから」と、こんなのが作りたかったとミニチュアを作ってきました。私がほどこいて皆で分けたら何か作れるかもと着物を持って行ったら、こういうものは大事に取っておくものと私の放出？を心配する方でした。

エイさんは途中で白内障の手術をしたにもかかわらず、密かに手を動かしていました。七月に入り材料が少なくなったことや先への動きが出始めたこともあり、手仕事以外の話も出てきました。我が家の羊の話に、小さい頃エイさんの家にも羊がいたということで、懐かしく元気が出たと言いました。私も嬉しくなり、次の時には羊毛とハンドカードとスピンドルを持って行って、ミニ紡ぎ会。サトさんがカード掛けしエイさんが初スピンドル。細い糸が紡げました。岩手には内陸ばかりではなく沿岸にも（山側らしいのですが）羊がいたのです。

キヨ子さんはアイさんと共に、物資を手に入れたり、ワラビ取りなど計画し、皆さんのために動いていました。初めてお会いした時、ぼろっと、「住所をね、書かなければならない時があるでしょう、なんにもないのよ、でもその住所書くの」と言った方。また、「ここだけは荒んだ雰囲気ではなく和やかだからほっとする」とも。そして、最近「私はね、海に育てられたから、何も出来ないかもしれないけれど帰る。海に恩返しをする」と言いました。レース糸でドイリーを作りました。

アイさんは、最初の日には一人やってきて、一人でもいいのですと言ったのに、お部屋をまわって皆さんに声をかけてきてくれた方です。おかげ様で沢山の方と出会うことが出来ました。「編み物何十年ぶり」と言いながらお孫さんのものなどを編みました。

仮設に入ったら、まず最初にミシンを買うと言った方、どんな切れはしでも愛おしそうに大切に集めていた方、ありがとうという言葉に晒してくれた方などなど。もっと沢山の方々の「お話」があるのですが、この辺でおしまいになります。（それぞれの方のお名前はかえてあります）

ここにいる方がたは多少なりとも顔見知りなのではと思っていましたが、ここで知り合っ

たという方がほとんどでした。『ひろば』があったから部屋に籠ることなく、友達もできた。帰ってからもお付き合いできる」と言われた時にはうれしかったです。

皆さん 27 日の朝に出発しました。行き先は前日に言われるということで、今どこにいらっしゃるのかはわかりません。仮設住宅が当たった方もいますがまだ鍵を渡されていないそうですし、まだ当たっていない方もいました。その不安、先の不安を思うと言葉もありません。

みなさま。本当に沢山の材料をお送り下さり、又、助言、励ましなどありがとうございました。背中を押された思いでした。材料も助言も思いつかなかったものが沢山あり、皆さんの生活者、作り手としてのキャリアを感じました。

限られた道具や時間、場所のために利用できなかった材料もありますが、状況が変わっていくのでこれから必要となるものがあるかもしれません。また、少しずつでも何か作り、役立てる方法を考えようと思います。お返しせずにここに置いておこうと思いますのでご了承ください。

もし何かなさる時、こんなものがあるかしらと思われた時はどうぞお尋ねください。思いがけないものがあるかもしれません！

それでは、中間報告なしの最後の報告になりました。

暑さの折、どうぞお気をつけてお過ごしくださいますように。

感謝をこめて。

あみあみぬいぬい手しごとひろば